



有形文化財（考古資料）

5 1. こんどうそうそうりゆうかんとう た ち つかがしら 金銅装双竜環頭大刀柄頭 1 箇

■指定年月日 昭和 51 年 1 月 14 日 (1976)

■寸 法 (環体のみ) 長径 9.3cm 短径 6.5cm
厚 1.2cm

■所 在 地 宝立町春日野

■所 有 者 個人

環頭大刀とは、柄の先端（握りの小指側）が環状をなす大刀のことで、源流は中国にある。環頭部分の形態や装飾には幾つかの種類があるが、この資料は、双竜環頭と呼ばれる種類で、環の中で2匹の竜が向い合って、互いの口で玉を取り合う様子を表現したものである補注。5 世紀後半には朝鮮半島で製作されて日本に運ばれており、6 世紀中頃から国産が始まり、7 世紀初めまで続くと思われる。

さて、本資料は宝立町春日野にある大島古墳群から採集された、6 世紀末から 7 世紀初めの柄頭部分である。この様な双竜環頭大刀柄頭は能登では本例以外に鳳珠郡穴水町の袖ヶ畑古墳、鹿島郡中能登町の曾根古墳の 2 例が知られるだけで、貴重

な資料である。

大島古墳群は 7 世紀頃の古墳で、4 基あるとされているが、確実に古墳と分かるのは 1～3 号の 3 基である。4 号墳はこの柄頭が採集されたことから古墳と推定されている。

なお、周辺の大島南古墳群が平成 2 年（1990）に発掘調査され、横穴式石室や大量の須恵器・土師器・金環などが発見され話題を呼んだ。

補注：本資料は竜ではなく鳳（伝説上の大鳥）という指摘がある。